

基幹共同研究「常民生活誌に関する総合的研究」 布の製作と利用に関する総合的研究

期間：2019 年～

〔所員〕 昆 政明 新垣夢乃 内田青蔵 大川 啓 小熊 誠 印牧岳彦 姜 明采
木下直之 久留島典子 後田多敦 周 星 須崎文代 角南聡一郎 関口博巨
泉水英計 高城 玲 道用大介 中林広一 平井 誠 平山 昇 廣田律子
前田禎彦 丸山泰明 安室 知 山本志乃 吉澤達也
〔客員研究員〕 刈田 均 佐々木長生 山口 拡

所蔵資料の整理と企画展の開催

昆 政明

本研究は生活にとって欠くことのできない「布」について、素材、糸、織り、用途などを実物資料と技術面を中心に研究しようとするものである。布は時代や使用目的によって変化する。そのため研究の対象は多岐に渡り、継続した息の長い研究となるものと考えている。

研究の進展状況としては、今年度も研究の基礎となる資料の収集と所蔵資料の整理を中心に進めており、資料収集においては昨年度まで3年計画で受け入れを行った「渡部つとむコレクション」の資料確認作業の目処がつき、今後は本格的調査活動を予定している。それに先立ち、同コレクションの中から「刺し子」を中心に資料紹介を企画展として開催した。これについては別項で詳述している。

今年度より、「渡部つとむコレクション」の作業と並行して、所蔵資料の中でまとまりのある資



写真1 渡部つとむコレクションの整理点検作業



写真2 波部つとむコレクションの収納



写真3 「小裂細工の米袋」の写真撮影



写真4 パソコンへの保存

料の整理作業に着手した。資料は「小裂細工の米袋」のコレクションで、米津為市郎氏が長年に渡り収集したものを研究所にご寄贈いただいたものである。

小裂細工とは、都市部の裕福な家の女性たちの、花嫁修業のひとつとして、着物に裁ったちりめん等の残り布を利用し、美しい袋物や小箱などをつくったもので、祝い事に際し米を入れて贈ったのがはじまりといわれている。このような風習は他の地域でも見られるようであるが、寄贈された資料は非常に華やかで手の込んだもので、「女の手跡（手仕事）」を研究する上で価値が高いと考えられる。時代は明治から昭和初期のもので、細工物を製作するための型紙も含まれており、裁縫所のお師匠さんから技術を学んでつくられた小裂細工は、女性教育の始まりを研究する上でも重要な資料ともなる。同資料は寄贈者により資料の基礎的整理がなされているが、今後は他地域を含めた詳細な調査を行い、今後の研究や展示で紹介していく予定である。

今年度も研究会等の事業は実施できなかったが、今後は各所員および学内学外の研究者の協力を得て調査研究を進めるとともに、研究会や企画展の開催に向けた準備を行っていく予定である。

■ 2023 年度の活動

※詳細は「資料委員会」36 頁参照。